熊本人物水路

国衆と加藤清正

小宇宙・検地・公感覚

光岡 明
（熊本近代文学館館長）

加藤清正像（熊本市本妙寺蔵）

これまで四回にわたって、熊本の明治維新と、その激動のなかで熊本人がどういう考えを持ち、どう行動したかを見てきました。歴史の専門家ではなく作家としての私には、この激動期の人間像に興味があります。今回は熊本の激動の時期を天正十五年（一五八七）の国衆一揆から、慶長十二年（一六〇七）ごろ完成した加藤清正の熊本城築城の期間にさかのぼらせ、中世から近世へ移り変わるときの人間の意識と行動を見たいと思います。そのうちのある部分、現代の熊本人にもある「セイショコさん信仰」は、この時代に根拠があるでしょう。

国衆一揆というのは、豊臣秀吉から肥後の領知を命じられた佐々成政が、秀吉の命令を無視して検地を強行し、それに反対する国衆の大部分が一揆を起こしたことを言います。国衆というのは戦国時代に郡内の城主だった武将たちで、千町から四千町、小さいものでも二百町を自分の所領とし、肥後では五十二人を数えました。これら国衆たちは大友氏（大分）とか島津氏（薩摩）に、表面的には服従しながらも、実質的には独立し地域的な農村の土豪や有力名主層に支えられ、地縁的血縁的に強力に結合していました。「衆」とか「寄合中」といった体制があり、国衆のもとに全農民あげて集合する軍事力を持っていました。まさに群雄が蟠踞していたのです。

いっぽう佐々成政が強行しようとした検地は、どんな性格を持っていたのでしょうか。検地とは田畑を一筆ものがさず、山野や屋敷地までも生産地として上げ、しかも一つの土地には一人の作人しか認めない方針をとりました。そうすると一般の農民に耕作させていた名主層、土豪たちは土地所有権を失い、隠し田もできませんから、ひいては国衆の経済的、政治的な地位をおびやかすものだったのです。検地は豊臣政権の最重要な政策で、土地と農民を直接結びつけ、それを村高（村の産出額）として把握し、年貢をとり立てやすくするものです。

古城跡（現 県立第一高校）

熊本城

こうして肥後の国衆一揆は起こるべくして起こりました。引き金を引いたのは菊池隈府城主隈部親永とその子山鹿城主親安です。一揆の軍勢は佐々成政が居城とした隈本城（熊本城となるのは慶長十二年以降です）にまで攻め入り、たちまち肥後一国に及びます。この国衆一揆は単に肥後一国の問題ではなく、肥前、豊前、筑後、筑前にも拡がる動きを見せます。豊臣秀吉にしてみると、検地は最重要な政策ですから、国衆たちを徹底的に弾圧します。九州はもとより中国、四国からも大名たちが送りこまれ、豊臣秀吉自身もやってきて鎮圧が行われ、国衆五十二人衆のうち残ったのはたった六人というありさまになりました。佐々成政は翌天正十六年、失政のかどで切腹させられます。

織田信長の遺志をついだ豊臣秀吉による全国統一は、国衆のような独立した地域権力を許しませんでした。歴史の大きな流れを知らなかった悲劇、とはいまだから言えることですけれども、地縁的血縁的身分的に結合して安定し、多分に地域の歴史も伝統も持った小宇宙が、外部の力でむざむざと壊されていくのを見るのは、国衆たちにとって堪えられないことだったでしょう。激烈な抵抗ぶりにも納得できます。

そういう小宇宙が壊れてしまったあとに、一般農民の上に吹き渡ってきた風が、豊臣秀吉を象徴とする中央政権という「公感覚」ではなかったでしょうか。その「公感覚」を体現したのが加藤清正ではなかったか、そして「公感覚」を目に見せてくれたのが熊本城ではなかったか、と私は思っています。

加藤清正は佐々成政のあと、小西行長とともに肥後の半国領知を命じられ、関ヶ原の戦い（慶長五年、一六〇〇）以後、一国領知となりますが、豊臣秀吉の全くの子飼いの武将ですし、秀吉の大方針はよくわかっていたに違いありません。加藤清正の手によって、検地は完成されていきます。肥後五十四万石という公儀高が出てくるのもこのときです。

肥後に入国したあとの加藤清正は、全く寧日なかったと言っていいでしょう。豊臣秀吉の大明国侵攻という恐るべき構想のもとに、文禄、慶長と二度の朝鮮侵攻を闘い、いっぽうで兵站基地である肥後の経営、熊本城の築城と休むひまはなかったと思います。お金や物資がなくて戦争はできないわけですから、新田の開発や河川工事、土木工事による生産物の増産、はては外国貿易による収入の増大など、肥後の国は大きな規模で変化をしていったでしょう。加藤清正は主計頭と言われたように、長く豊臣秀吉の主計局長的な地位にありましたし、理財の能力にもきわめてたけていたと思われます。土木技術の技術も言うに及びません。

戦費その他の必要に迫られていたとは言え、経済力の基盤が整えられていくのを見る一般農民は、国衆が支配していた国とは違う、もうひとつ大きな公権力の存在を感じ取っていただろうと思います。形を現わした熊本城を見るとき、公権力とはこんなものかと思ったに違いありません。現代にもつづく「セイショコさん信仰」は、こんなところにも根があるのではないか、と思います。

堺村城跡（山鹿市）

隈府城跡（菊池神社）